

# Slovenia Monthly November 2017

## スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2017年12月8日



### ～11月の主なポイント～

**政治：** 大統領選挙最終結果：パホル大統領，53.09%を獲得し再選。  
ユンカー欧州委員長，スロベニア・クロアチア国境画定問題の最終裁定履行の支援を指示。  
ツェラル首相，「16+1」首脳会合出席。一帯一路及び蜂蜜製品輸出に関する合意書署名。

**経済：** 2018年度予算案，議会通過。歳入€96.8億，歳出€96.3億，財政黒字を目指す。

**企業：** 安川電機新規ロボット製造拠点，鋳入れ式開催。投資額2,500万ユーロ，雇用約200名。

**社会：** ガンプレット選手，スポーツクライミングワールドカップのリード部門及び総合で1位を獲得。

## 政治

### 【スロベニア大統領選挙】

#### ●パホル大統領，53.09%獲得し再選【28日】



(Photo: Nebojša Tejić/STA)

28日，スロベニア選挙管理委員会は，同12日に実施された大統領選挙(決選投票)の最終結果を公表し，パホル大統領の再選が確定した。なお，スロベニア通信(STA)によれば，次期大統領の宣誓式は，国民議会にて12月22日(金)に執り行われる予定。投票率は42.13%。各候補者の獲得票数及び得票率は以下のとおり。

- (1)ポルト・パホル 378,307票(53.09%)
- (2)マリヤン・シャレツ 334,239票(46.91%)

## 【内政】

### ●来年国民議会銀選挙に向けた動き【18日】

18日，リュブリャナの南西部に位置するヴルフニカ(Vrhnika)市の集会にて，現在無所属のドボウシェク(Bojan Dobovšek)国民議会議員が，汚職・腐敗対策を主な目的とした新たな政党「Good State party」を結成した。同集会には200名が参加した。ドボウシェク議員は，連立与党現代中央党(SMC)の発足人の一人だったが，その後人事問題と不透明な資金の流れに関する意見の相違でSMCを離党している。また，新政党には元SMC党員が複数名合流したとの情報もある。

なお，DELO紙によると，大統領選に出馬し現職のパホル大統領を相手に善戦したマリヤン・シャレツ氏は来年の国民議会議員総選挙に出馬する意向を示しており，来年に入ってから活動を本格化させる模様。同総選挙に向けて，シャレツ氏が他の市長らとの新たな政党を結成するという噂が立っていたが，同氏は既に自分の党「Marjan Šarec List」があるので，新規政党は立ち上げる必要がないとしている。

## 【外政】

### ●経済大臣，アルバニア訪問【6日】

6日，ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は，20社の代表からなる大規模なビジネス代表団と共に，アルバニアを訪問し，アルバニア政府高官と会談す

ると共に、スロベニア・アルバニア・ビジネス・フォーラムに出席した。同大臣は、両国間の貿易・投資は比較的低い水準にあり、更なる強化を期待していると述べた。2016年度の対アルバニア輸出は4563万ユーロ、輸入は150万ユーロ、投資は殆どなかった。同大臣は、貿易強化により政治関係も更に発展させていきたいと述べた。

#### ●経済大臣、モンテネグロ訪問【7日】

7日、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、前日のアルバニア訪問に続き、ビジネス代表团と共にモンテネグロを訪問し、セクリッチ(Dragica Sekulić)モンテネグロ経済大臣と会談した。ポチヴァルシェク大臣は、二国間の経済協力が増加傾向にあり、現在貿易総額は1億4000万ユーロ、スロベニアの対モンテネグロ投資額は1億7300万ユーロであることは嬉しいと述べた上で、スロベニアにおける投資機会につき説明し、モンテネグロ企業の対スロベニア投資の推進を呼びかけた。また、両大臣は、エネルギー、食品産業、木工業等における二国間協力につき意見交換し、特に中小企業の活動の支援が必要であるとの認識で一致した。

#### ●ジダン農林食糧大臣が香港訪問【8日】

8日、ジダン副首相兼農林食糧大臣は香港を訪問し、ビジネス代表团とともにキャリー・ラム(林鄭月娥 Carrie Lam)香港特別行政区政長官と会談し経済協力につき意見交換した。同大臣は、10日には国際ワイン・スピリッツフェアに出席し、「参加者はスロベニアのワインや、養蜂・スロベニア産蜂蜜製品を宣伝するパビリオンに強い関心を示し、スパークリング蜂蜜酒は完売。数年前に年額9万ユーロだったワインの輸出額は、昨年には80万ユーロとなり、本年7月迄に100万ユーロに達した」と述べた。同フェアには、スロベニアからワインメーカー9社、グルメ食品企業3社が出展。なお、2016年におけるスロベニアの対香港輸出は3600万ユーロ、香港の対スロベニア輸出は400万ユーロ。ジダン大臣は、今後も香港・スロベニア間での貿易増加の余地があると述べた。

#### ●リュブリャナ市長及び労働大臣、ロシア友好勲章授章【4日】

4日、ヤンコヴィッチ・リュブリャナ市長及びコパチュ＝ムラク労働・家族・社会問題・機会均等大臣は、ロシアとの関係強化並びに第一次及び第二次世界大戦において戦没したロシア及びソ連軍兵士の記憶を

保存したことへの貢献を讃えられ、プーチン・ロシア大統領より、友好勲章(Order of Friendship)をクレムリンにおける式典で授章した。ロシア統一記念日に開催された同式典では、両名の他、ロシア、セルビア、フランス、スペイン及びトルコから6名が同勲章を授章。友好勲章は、ロシアの勲章の中では最高位の栄典の一つであり、国家間の平和、友好関係、協力及び理解促進に貢献した者に授与される。

#### ●経済大臣、カナダ訪問【10日】

10日、カナダのオンタリオ州を訪問中のポチヴァルシェク経済大臣は、トリー・トロント市長及びスロベニア系のみへウツ・同市市議会議員等と会談し、同市におけるスロベニア・ビジネス代表事務所の設置を含む、経済協力強化につき意見交換を行った。また、同大臣は、マグナ社ウォーカーCEOとの間で、将来の拡張計画につき意見交換を行い、同社のサプライヤーがスロベニアへの進出に関心が示していることは嬉しいと述べた。

#### ●「ガリレオ」セキュリティ監視センターに入札【16日】

16日、現在英国を拠点とする欧州の航行測位衛星システム「ガリレオ(Galileo)」のセキュリティ監視センター(Galileo Security Monitoring Centre, GSMC)の、英国EU離脱後の新しい拠点として、スロベニアが誘致に手を挙げることを決定した。政府によると、スロベニアは欧州宇宙機関(ESA)への本格的な加盟を追求する意向であり、また同監視センターの条件を満たした建物も既に存在する。誘致に成功した場合は、運営費に毎月6万ユーロがかかると想定。なお、ガリレオは、欧州のグローバル衛星航法システム(GNSS)であり、欧州における位置情報等を提供している。

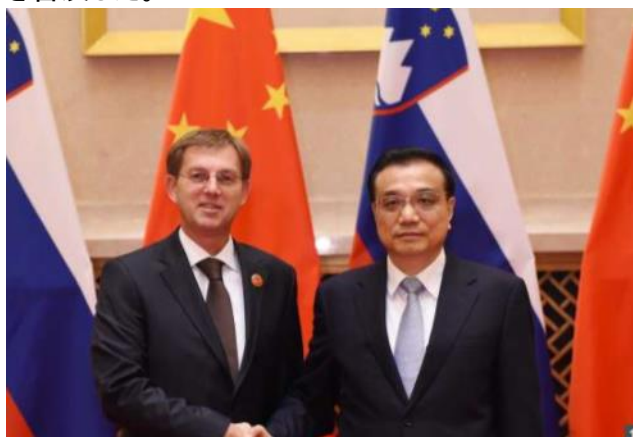
#### ●首相及び労働大臣、欧州社会サミット出席【17日】

17日、スウェーデンのヨーテボリ(Gothenburg)で開催された欧州社会サミット(EU Social Summit)にツェラル首相及びムラク労働・家族・社会問題・機会均等大臣が出席した。同サミットは、欧州における公正な雇用と成長の促進に関する議論を目的として20年ぶりに開催され、成果文書としてジャン・クロード・ユンカー欧州委員会委員長、アントニオ・タイヤーニ欧州議会議長及び現在欧州理事会議長国を務めるエストニアのユリ・ラタス首相により「社会権利の柱」(The European Pillars of Social Rights)が署名され

た。ツェラル首相は、「EUの競争力強化のために労働コストを削減したり、労働者権利をないがしろにすることがあってはならない」と指摘した上で、スロベニアの社会開発目標と合致した「社会権利の柱」文書を歓迎した。

### ●ツェラル首相、「16+1」首脳会合出席【27日】

27日、ブダペストにおいて「16+1」首脳会合が開催され、スロベニアからはツェラル首相、ジダン副首相兼農林食糧大臣及びポチヴァルシェク経済開発・技術大臣が出席した。また、スロベニア政府は、同会合のマージンにおいて中国との間で「一帯一路協カインシアティブ」及び「蜂蜜製品の輸出に関する議定書」に署名した。ツェラル首相は、「自分は、16+1の枠組み内の協力の一環として、我々にとり重要な2つの合意に署名したことを喜ばしく思う。過去3年間で中国との貿易高は35%増加し、一帯一路協カインシアティブの増加に貢献した」と述べ、また、ハイテク分野及び観光にかかる協力の重要性につき言及した。



(Photo: Xinhua/STA)

### ●欧州委、国境画定問題に関する最終裁定履行を支援【27日】

27日、欧州委員会によれば、ユンカー欧州委員長が、ティーマーマンス欧州委筆頭副委員長に対し、スロベニア・クロアチア国境画定問題に関する常設仲裁裁判所の最終裁定履行を支援するよう要請し、同副委員長は本年末迄に両国を訪問する予定である。また、ユンカー欧州委員長は、両国首相と協議を行い、最終裁定を最善な形で履行するための貢献を行うか、又は、履行プロセスを手助けする用意があるとの欧州委の立場を両首相に伝達している旨発表した。これを受け、ツェラル首相は、ユンカー委員長の決定を歓迎すると共に、「ティーマーマンス欧州委筆

頭副委員長は信頼できる人物であり、ポジティブな貢献が出来る秀でた法律専門家である」と述べた。



(Photo: Nebojša Tejić/STA)

## 経済

### 【マクロ経済・統計】

#### ●2018年度及び2019年度予算案【12月4日】

12月4日、国民議会は2018年度及び2019年度予算案を可決した。2018年度予算案における歳入は96.8億ユーロ、歳出は96.3億ユーロ。2019年度予算案における歳入は97.5億ユーロ、歳出は97億ユーロ。財政収支は、両年とも5000万ユーロの黒字を目指す。(詳細は、下記「スロベニアに迫る！」参照。)

### スロベニアに迫る！ 57

#### 2018年度 政府予算案

12月4日、2018年度及び2019年度予算案が国民議会で可決されました。当初、11月16日に国民議会議会にて同予算案は承認されましたが、同21日、地方自治体に対する財政支援にかかる予算額が不足する等の理由により、上院である国民評議会議会にて地方自治体の代表らが拒否権を発動し、否決されたのを受けて、国民議会議会にて再度可決されたものです。

予算案の概要は以下のとおりです。

#### (1) 歳入及び歳出

歳入は96.8億ユーロ、その内、税収が21.5%。歳出は96.3億ユーロを計画。

#### (2) 財政収支

統計局によると、本年のGDP成長率が4.4%と予測される中、財政赤字GDP比は、昨年1.9%から本年末には0.8%への減少の見込み。今後2年間も、3%及び4%の経済成長が持続し、政府歳



入の対GDP比も今までと同水準が維持されると予測。他方、政府は、2020年末までの構造的財政収支の均衡達成に向けて、歳出の管理・抑制に取り組むことによって、2018年にはGDP比0.4%の財政黒字(名目ベース)を目指す。

### (3) 予算拡充の重点分野

ア 2018年予算の支出先として最大の増加が見込まれる分野は、運輸インフラ、科学技術、医療保健、起業家支援及び競争力強化等の経済活動。特に、運輸インフラ分野では、コペル・ディヴァチャ間の第2鉄道路線建設計画への大型投資を予定。

イ 緊縮財政下に設けていた児童手当にかかる所得制限を撤廃し、手当の対象範囲を経済危機以前のレベルまで回復させる(現在は所得が平均所得の64%までの家庭が対象)。また、本予算案には、本年より承認・導入された年金ボーナスの支給(年金受給額により一人当たり90ユーロから400ユーロ)などが織り込む。

なお、11月22日、欧州委員会はスロベニアの2018年予算案に対する意見報告書を発表しました。その概要は以下のとおりです。

(1) スロベニアの2018年予算案は名目ではほぼ均衡しており、財政状況も改善。スロベニア政府が提示する2018年の構造的財政赤字目標値、GDP比1.0%(前年比0.6%改善)に同意。また、公的債務残高は、本年末に対GDP比75.2%(前年比3.3%改善)達成が予測され、2018年にはさらに71.7%への改善を計画していることは欧州委の2017年秋季観測とも合致。

(2) しかしながら、EU「安定成長協定」の下、スロベニアは依然として財政規律に関する中期目標を達成できない国、「違反のリスクがある国」と評価。その理由として、2011年以降、歳出に対する公共投資の割合が減少する一方で、社会保障費及び公務員給与の支出は割合が増加していることが挙げられる。

投資においては、医療保健分野においては本年、長期医療に関する法案の審議開始や医療システムの改善等の取組が見られる一方、年金制度改革における取組は2020年以降の施行が予定されており、中長期的な持続性確保が危惧される。

(3) また、これまでの公的債務残高の減少は、部分的に良好な経済環境に起因していることに鑑み、スロベニアは、今後も公的債務残高の減少に取り組めるよう、構造的な財政回復によって十分なバッファを確保するよう提言。

### ●「Invest Slovenia FDI Awards」発表【16日】

16日、スロベニア投資庁は、2017年の「Invest Slovenia FDI Awards」を発表し、4社が受賞した。

- ①ベスト雇用者部門は、南西部のデカニに所在する英国系の「Titus」社で、家具のコネクター、減衰装置、自動インストールシステム、道具とダイキャスト技術の開発を行っており、スロベニアで720名雇用。
- ②長期的活動部門を受賞したスロベンスカ・コニツェ市の「Iskon」社は、オーストリアの「ISOSPORT」社の傘下であり、160名を雇用し、環境に優しいプラスチック製品を製造している。
- ③R&D及び業績部門では、北部ナクロに所在するドイツの「LPKF Laser & Electronics」グループ傘下にある「LPKF」社が受賞。同社は電子基盤のプロトタイプ製造用の機材では、世界最大のサプライヤー。
- ④ロジスティクス分野では、リュブリャナ空港に拠点を持つオーストリアの「Kuehne+Nagel」社が受賞。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

### ●投資促進に関する法案を採択【16日】

16日、スロベニア政府は投資促進に関する法案を採択した。同法案は、グリーンフィールド投資及び雇用創出を促進する投資に対するインセンティブ供与におけるインセンティブの種類、条件、基準及び手続等を規定するもの。インセンティブの種類は、ローン、政府補償及び金利軽減が想定されている。また、同法案では、戦略的投資を、4000万ユーロ以上で、400名以上の雇用を創出するものと規定しているが、投資額200万ユーロ以上で、200名以上を雇用するR&D分野での投資に関しても戦略的投資と位置づけている。

また、同法案では、公共の利益に貢献し、経済成長を促し、雇用創出及び地域開発に繋がる戦略的投資においては、地権者からの土地接收の可能性も視野に入れ、FDIと国内企業による投資も平等に

扱われる。同法案は来年の第1四半期に国民議会での採択が想定されている。

### ●EFSA, スロベニア食品安全機関を評価【20日】

20日, 2日間にわたりスロベニアを訪問中のユーール(Bernhard Url)欧州食品安全機関(EFSA)事務局長は, スロベニア公衆衛生研究所(National Public Health Institute)及び食品安全管理局(Food Safety Administration)の仕事ぶりを高く評価し, 同国における食品の安全性を保証するシステムが非常に有効であると述べた上で, 欧州地域において高い食品安全基準を維持するためにも, このような機関の協力が必要だと述べた。

### ●スロベニア中銀, FDI報告書を発表【24日】

24日, スロベニア中銀は, 2016年の外国直接投資(FDI)報告書を発表した。スロベニアへの対内直接投資残高は, 2016年末に129億ユーロとなり, 前年比11.5%(14.8億ユーロ)増加。その内, 株式資本は9.4億ユーロ, 留保利益は1.3億ユーロ。また, スロベニアからの対外直接投資額残高は, 前年比3.7%増の57億ユーロとなった。

外国人所有者を持つ企業は, スロベニア全企業の4.7%を占め, その投資利益率の平均は10.4%であり, スロベニア企業全体の利益率7.3%を上回った。外国におけるスロベニア系企業の投資利益率は平均で2.5%を記録した。日本は, スロベニアにとって15番目の主要投資国であり, FDI残高額は7340万ユーロ(前年比230ユーロ増加)。スロベニアから日本へのFDI残高額は150万ユーロ(前年比80万ユーロ減)にとどまった。

### ●OECD, スロベニア経済予測を発表【28日】

28日, 経済協力開発機構(OECD)は, スロベニアの最新経済予測を発表し, 2017年GDP成長率の予測値を1.1%ポイント引き上げて, 4.9%とした(2018年は4.3%)。同数値は, IMFやスロベニア経済分析発展研究所(IMAD)等の予測値と比較して最高値だが, 成長の要因は堅調な輸出, 国内消費及び投資の増加と他機関の分析と同様。他方, OECDは, 「将来の高齢化関連の支出を見越して負債の対GDP比を下げ, 生産性及び競争力を高めるためにも, 政府が国営企業の民営化等の改革を進めることが重要であり, また, 2013年の経済危機以降, 金融システムが回復したにもかかわらず, 低金利で融資を続ける環境は, 銀行の利幅を縮小し持続性の確保を損なうリスクを伴う」としている。

### 【金融・企業関係】

### ●安川電機, 新規ロボット工場の鍍入式開催【2日】



(Photo: Nebojša Tejić/STA)



(Photo: Embassy of Japan)

2日, スロベニア南部コチェウイェ市(Kocevje)において, ツェラル首相, ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣, ガシュペルチッチ・インフラ大臣及びブレンチッチ教育・科学・スポーツ大臣の立ち会いの下, 安川電機の新規ロボット製造工場鍍入れ式が開催された。同社にとり欧州で初となるロボット製造工場の投資額は2,500万ユーロ, 約200名を雇用する予定。9,600平米の工場施設及び2,600平米の事務所スペースからなる新工場は, 2019年には全面操業を開始し, 年間約6,000台のロボットを生産, 欧州における同社の産業用ロボット需要の80%を満たすこととなる。同工場の建設に際し, スロベニア政府は投資総額の23%に相当する560万ユーロの補助金を拠出した。

シュネッケンブルガー欧州安川電機ロボット事業部長は, 新工場は「顧客に対し, 最短の納期でカスタムメイドのソリューションを提供する」と述べた。また, 3人の大臣に同行されたツェラル首相は, 「国際的なビジネス環境に統合されたスロベニアの良好な立地条件と高い教育水準を有する労働力が, 今回



の「スマート工場」の建設決定に貢献した」と述べた上で、コチェウイェで製造される最先端ロボットが、技術立国としてのスロベニアの位置を強化し、経済全体の発展に貢献するものであると強調した。併設されるR&Dセンターでは、主にスロベニア人の専門家を雇用し、顧客のニーズに対応したロボット開発のために、スロベニアの学術機関との共同研究も行われる予定。

### ●IAEA、クルシュコ原発の緊急対応調査を実施【17日】

17日、2週間に亘り、クルシュコ(Krško)原子力発電所における緊急時対応の準備状況に関する調査を実施したIAEAの調査団は、スロベニアは潜在的な原子力事故に対応するためのシステムに十分な予算を投入し、殆どの関係機関が高い水準の対応策を取っているとして賞賛した。他方、IAEAは、事故発生時及び発生後の全段階における状況モニタリング戦略を準備する必要があるとし、また、既存の関係機関間の調整メカニズムの強化、事故発生時の国家保護・救助計画の策定完了、クルシュコ原発以外の原子力施設での事故を想定した訓練実施、ソーシャルメディアにおける偽情報の拡散防止対策等の必要性を指摘した。

### ●クルシュコ原発、スロベニア・クロアチア合同委員会を開催【21日】

21日、クルシュコ原発に関するスロベニア・クロアチア合同委員会が開催され、使用済み燃料の乾式貯蔵施設の建設計画につき議論が行われた。スロベニア側は、クルシュコ近郊のヴルビナ(Vrbina)における施設建設へのクロアチア側による投資の検討を呼びかけたが、クロアチア側は、環境及び経済面での留保を表明した。今次会合後、ガシュペルシッチ・インフラ大臣は、2023年迄には使用済み燃料の長期的解決策を見出す必要があると述べた。次回会合は来年末を予定、同年5月迄に両国の専門家が新たな解決策を提案する予定となっている。

### ●製薬大手、中国企業との合併企業合意【18日】

18日、製薬大手のクルカ(Krka)社は、中国の「Ningbo Menova Pharmaceutica」社との間で合併企業を立ち上げることを合意した。合併会社の資本金は3000万ユーロ。クルカ社が60%を出資し、3名の取締役を派遣する。クルカ社は中国市場への進出を目指していたが、合併会社の初期目標はクルカ社の製品の中国における登録であり、その後は長期

的契約に基づき、クルカ社の錠剤・カプセル剤を「Ningbo Menova Pharmaceutical」社で製造することとなる。

### ●マリボル空港、事前契約の署名【27日】

27日、ブダペストにおいて、マリボル空港管理会社を所有する中国資本の「SHS Aviation」社は、「中国建築(China State Construction Corporation)」との間で、総額6億6000万ドルに上る、同空港の拡張工事にかかる事前契約(preliminary contract)に署名した。「SHS Aviation」社のマーク・グロス氏は、「今回の事前契約は、『16+1』イニシアティブにおける第二期融資パッケージへの参加を実現するためのものである」と述べ、資金は、滑走路の延長、旅客ターミナルの整備、貨物倉庫のキャパシティー増加、航空機の格納庫、ホテル建設等に使用されると述べた。

フィシュトラヴェツ・マリボル市長は、「マリボル空港の開発は予定通り進んでおり、次のステップは、滑走路延長に際する建築規制の改定である」と述べた。コヴァチッチ・マリボル市長経済顧問は、マリボル空港は、欧州＝中国間を直行旅客及び貨物便が就航するニッチな空港を目指す旨述べた。なお、同顧問によれば、「SHS Aviation」社は、自己資金及び銀行融資により、本件プロジェクトを実施する予定。

なお、30日、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、「本件契約は、家主の同意なしで借り主が勝手にマンション改装するようなものだ」として、本件に対するスロベニア政府の関与を否定した。



(Photo: Daniel Novakovič/STA)

## 社会・文化・スポーツ

### ●ガンブレッド選手、スポーツクライミング1位【12日】

11日から12日にかけて、スポーツクライミングワールドカップ(IFSC Climbing Worldcup)のリード種目

最終戦がクラン(Kranj)市で開催され、これまでの大会結果から既に今年度ワールドカップ女王の座を決めていたガムブレット(Janja Garnbret)選手が、本最終戦でも1位を獲得し、前年度に続き2017年シーズンもリード及び複合種目で1位を獲得した。また、同最終戦女子ではベテランクライマーのマルコビッチ(Mina Markovič)選手が5位、ルカン(Vita Lukan)選手が7位入賞を果たした。男子では、シュコフィッチ(Klemen Škofic)選手が4位となった。



(Photo: Stanko Gruden/STA)

なお、IFSC Climbing Worldcup 2017年シーズンにおける日本人選手の結果は以下のとおり。男子リードでは是永敬一郎選手が自己最高位となる3位、男子複合では檜崎智亜選手が優勝、藤井快選手が3位。女子ボルダリングでは野口啓代選手が3位を獲得、野中生萌選手が4位。男子ボルダリングでは檜崎智亜選手が銀メダルを獲得。他の日本勢も多数上位に入賞。

スポーツクライミングは2020年東京五輪の追加種目として採用されており、以下の4種目で構成。リード(十数メートルの壁に設定されたコースを登り、その到達高度を競う)、ボルダリング(高さ5メートル以下の壁に設定された複数のボルダー(コース)を、制限時間内にいくつ登れたかを競う)、スピード(高さ10メートルもしくは15メートルの壁で、予めホールドの配置が周知されているコースをどれだけ早く登るかを競う)及び複合(現時点では、それぞれの種目の順位の掛け算で順位を決定、今後より公平な公平で競技性の高い正式な競技方法が決定される予定)。(出典:<http://www.jma-climbing.org/article/2017/>)

### ●ノヴォ・メスト大学、6校目として認定【18日】

28日、ノヴォメスト大学(University of Novo mesto)は、スロベニア高等教育品質保証機関(National Agency for the Quality of Higher Education)より私

立大学として認定を受けた。同大学は、スロベニアにおける6校目の大学として開設、5年間の認定を受けた。同大学は、経営学部、経営情報学部、経営管理学部、技術システム部、保健科学部で構成される。今年度は4学部で600人以上の学生が在籍し、100人の教授が講義を行った。なお、スロベニアには、リュブリャナ、マリボル、プリモルスカの3校の公立大学と、ノヴァ・ゴリアの2校の私立大学がある。

### ●モスクワ国立大学の支部開設【20日】

20日、プリモルスカ大学(Primorsko University)において、エリヤヴェツ外相及びカンタルティ経済開発・技術省副大臣出席の下、モスクワ国立大学(Moscow State University)の支部開設式典が開催された。マルシッチ(Dragan Marušič)プリモルスカ大学学長は、今回の支部開設は、2年間に亘るプリモルスカ大学経営学部とモスクワ・スクール・オブ・エコノミクスとの緊密な関係の成果であり、今後は経済・財政分野のみならず、ロシア語、数学、ITといった分野にも協力を拡大していきたいと述べた。

### ●新たな早期老化遺伝子を発見【21日】

21日、リュブリャナ大学病院の臨床遺伝学研究所(Clinical Institute of Medical Genetics)の研究グループは、新たな早期老化の遺伝子の発見を発表した。この早期老化症の研究は、遺伝的変異を伴って生まれた6か月の乳児とその両親の遺伝子の比較によって実施された。ペテルリン(Borut Peterlin)同研究所所長は、「今、我々はヒトゲノムのわずか15%についてしかその重要性について理解できていない」と述べた上で、本研究成果が新惑星の発見に匹敵すると述べた。なお、本研究成果は米国人類遺伝学会の学術雑誌“American Journal of Human Genetics”に発表された。

### ●ダムヤン選手、スキージャンプワールドカップ1位【26日】

11月26日にフィンランドのクーサモ(Kuusamo)で開催された、スキージャンプワールドカップにて、ダムヤン(Jernej Damjan)選手が140メートル及び142メートルの記録で優勝を果たした。同選手は2014年の札幌大会でも優勝。なお、今までにスロベニア人のスキー選手が個人部門で獲得した優勝回数は累計65回である。



(Photo: Stanko Gruden/STA)

### ●アドリア航空, 新規就航先を発表【29日】

29日、アドリア航空は、本年10月にキエフ便の運航を開始したほか、2018年夏の運航スケジュールで、新たに、ハンブルグ、ジュネーブ、ブカレスト、ソフィア、ドゥブロヴニク、ブラチ島(クロアチア)行きの航空便を追加すると発表した。2018年3月25日から、ハンブルグとブカレストには週4便、ジュネーブとソフィアには週3便、2018年4月28日から、ドゥブロヴニクとブラチ島に週2便の運航を予定している。



## 発見！スロベニア

### 日本を代表するマジシャンのルーツ

スロベニア出身の中村マリヤナ (Marjana Nakamura) さんは40年以上前に21歳で日本に移り、小学生時代からの日本のペンフレンドと結婚しました。中村さん夫婦は14年間生活を共にした後、離婚後はマリヤナさんが英語教師として働きながら息子を育てました。7年前には、マリヤナさんは再婚し、現在はスクラップブックやグリーティングカードを造ったり、書道を練習したり、趣味を楽しんでいます。

そして、マリヤナさんが特に誇りに思っているのが、マジシャンとして国内外で活躍する孫のユリ (YURI) さんです。ユリさんは、13歳でプロの魔術師であり病院の院



長でもある田代茂 JCMA(日本クローズアップマジシャンズ協会)会長に弟子入りしました。田代氏は非常に厳格な師匠で、7年間、ユリさんは特別な高校に通い、病院を手伝う傍ら、毎日8時間マジックを練習しました。現在では、ユリさんは、日本のほか、米国、ルーマニア、韓国などででの公演の経験を経て、東京を拠点にして若手マジシャンとして独立しています。

2017年3月、ユリさんは東京で開催された The Japan Cup 2017 (JCMA 主催)で優勝。11月には、3年に一度開催される FISM 国際マジック団体連合大会に向けて、岐阜市で開催された FISM アジア大会 (FISM ACM 2017)に参加しました。今回は本アジア大会で惜しくも敗退となりましたが、マジック界におけるユリさんの今後の活躍が期待されます。

(記事・写真:DELO 紙)

## 小さなワイン大国スロベニアのワイナリー紹介 第7回 「チョータル Vina Čotar」



チョータル (Vina Čotar) は、スロベニア西部クラス (カルスト台地の意) 地方、イタリア国境から僅か数キロに位置するゴ

リャンスコ (Goranjsko) 村にある家族経営のワイナリーです。アドリア海にも近く、夏は海からの涼風、冬は時に風速120キロに達するポーラ (Bora) と呼ばれる山風がワインをドライにします。

また、クラス地方は、石灰岩の風化により後に残る鉄分などが酸化するために赤紫色になる「テラロッサ」という土壌で知られています。畑の表土の厚さは25cmに過ぎませんが、葡萄の根はその下の母岩にある無数の亀裂に沿って地中深くまで伸び、豊富なミネラル分を吸収します。

チョータルでは、白では固有種のヴィトウシュカ (Vitovska)、マルヴァジア (Marzija)、ソービニオン、赤では地域種のテラン (Teran)、メルロ、カベルネ・ソービニオンを栽培し、有機栽培認定を受けています。

また、醸造方法にも独特の哲学があります。自然醸造を取り入れ、年間を通じ気温12~13度に保たれている石灰岩の岩盤地下セラーにて、ス



ロベニア産オークの古樽で自生酵母発酵させた後に、仏ボルドー又はブルゴーニュ地方産の古いバリーク樽に移し替えられ、最短でも3年間熟成され、無濾過のまま出荷されます。今出荷されているワインの中には10年前のヴィンテージも多くあります。

オーナーのブランコ氏 (Branko) は「チョータルでは元々のブドウの特有の風味を引き出すため、古樽での熟成を取り入れている。熟成のコツは、辛抱強く長期間、暖かく見守るのみだ」と言います。

お勧めは、白ではヴィトウシュカ。3年間樽熟成されたワインは梨やアプリコットの風味を感じ、すっきりとした酸味があり和食にもよく合



ます。赤では「テラロッサ」。テラン特有の酸味にメルローの丸みが上手く中和してバランスを保ち、複数のスパイスの香りを感じる複雑なストラクチャーがあり、ラスティックな風味も楽しめます。

HP: <https://cotar.si/>

(DS ワイン: 日本の輸入代理店: <http://ds-wine.jp/>)

## 在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: [info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

Web: [http://www.si.emb-japan.go.jp/website\\_jp/index\\_j.html](http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html)

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

[info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

### ★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

### ★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。4月号では熊本県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

[http://www.si.emb-japan.go.jp/Living\\_in\\_Japan.html](http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html)

### 【広報文化班からのお知らせ】

#### ●MAKKON 2017

マンガ・アニメ愛好家が集うポップカルチャーイベント。メインステージではマンガやアニメに関するレクチャーやトークショー、コスプレ・コンテスト等が行われる他、キャラクターグッズや日本産製菓の販売、テレビゲーム、武具類の展示、日本語体験等のコーナーがあります。

○日時: 12月16日(土) 12:00~20:00

○場所: リュブリャナ大学コンピュータ科学・情報学部 (Večna pot 133, Ljubljana)

### 【領事班からのお知らせ】

#### ●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

#### ●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

#### ●すり被害が多発しています！

リュブリャナ中心部にて、日本人観光客のすり被害が多数発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、リュブリャナ以外では、ブレッド城、ポストイナ洞窟でも被害が発生しています。

貴重品は背負ったカバンには絶対に入らず、異変を感じたらすぐに確認してください。